

北海道各地から産出する黒曜石
その67

～黒曜石の原産地(噴出源) その1～

(1)旭川地域

この地域からは、EPMAによる分析・同定によって、旭川Ⅰ・Ⅱ組成グループ、滝川組成グループに属する黒曜石が産出する。いずれも、新第三紀鮮新世の高砂台礫層から二次的な堆積物として採取されている。旭川Ⅰ・Ⅱ組成グループは、石狩川の運搬によって北空知地方まで分布していることがこれまでの筆者による広域調査によって初めて明らかになっているが、噴出源については調査を重ねても未だ明らかになっていない。既に岩体が消失したか火砕流堆積物に覆われてしまっている可能性がある。旭川Ⅰ組成グループのK-Ar法による年代測定では、 $3.87 \pm 0.19\text{Ma}$ の値が得られており(向井・和田、2002)、今後の噴出源の調査において有力な情報である。

(2)北空知地方

この地方からは、筆者の調査により主に滝川組成グループに属する黒曜石が産出する他、旭川Ⅰ・Ⅱ組成グループの黒曜石も採取される。いずれも、第四紀更新世の低位段丘堆積層、すなわち礫・砂・凝灰質の粘土からなる地層中から採取されている。滝川組成グループは、旭川地域(最北は愛別町)から北空知地方一帯(南限は新十津川町付近)に限って分布しているが、噴出源については、広域調査を行っているが未だ明らかになっていない。石狩川が黒曜石の運搬・堆積に関与していると考えられる。空知北部の北竜町や雨竜町の丘陵地～山地にも黒曜石礫が広く分布する。

(3)白滝地域

白滝地域は、白滝Ⅰ・Ⅱ組成グループに分類される。白滝Ⅰ組成グループは、872mのピーク付近が噴出源であり、白滝Ⅱ組成グループは、赤石山山頂付近が噴出源である。双方ともに黒曜石の溶岩が露出している。噴火史については、最近になって詳細な調査・報告が行われている(和田・佐野、2015)ので、そちらを参照されたい。

(4)名寄地域

名寄地域では、知恵文丘陵や忠烈布丘陵において、後期中新世に属する川西層中から黒曜石を採取できる。噴出源については、周辺に流紋岩の岩体が存在し、それが関与している可能性もあるため筆者が広域調査を行ったが未だ明らかになっていない。岩体の消失又は火砕流によって覆われている可能性が示唆される。フィッション・トラック法による年代測定では5.90Ma、5.93Ma、5.91Maの値が既に知られており、今後の噴出源の調査において有力な情報と言える。

(5)赤井川地域

赤井川地域では、筆者が周辺地域の調査を行った結果、中の沢川上流の三角点(613.5m)より北西側の斜面の堆積物中に、多数の黒曜石礫を採取可能である。従って、この三角点付近からその南側の669mのピーク付近までに黒曜石の噴出源が存在する可能性がある。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

